

NADPZ

FEBRUARY NEWSLETTER



プロジェクトサイトの畑

雨季には、大雨と大量の水のために野菜を栽培する農民はほとんどいません。多くの農家は、栽培と収穫が容易でほとんどの家族で食べられている市場価値の高い季節野菜の栽培に焦点を当てています。今年の職業訓練センター菜園では、菜の花とカボチャの葉を栽培しています。これらの野菜は、ピーナッツを使った伝統的な地元でお気に入りの一つを含め、さまざまな方法で調理できます。この料理は、ザンビアに来るすべての人にとって一番のおすすめです。次回ザンビアに来られた時には是非お試しください。

トウモロコシ畑のマルチング（被覆）

2020/2021年の雨季も3月末には終わりになります。雨が止んだ後に予想される非常に高い気温に備えてトウモロコシ畑を準備することが農家にとって重要です。今の時期、農民たちには1月と2月に畑を除草した後の雨季の雨を保持した雑草を使用して作物の周りをマルチング（被覆）するように指導しています。これにより、作物が完全に成熟するまで水分を保持することができます。右の写真は、チカンの農民たちがプロジェクトのトウモロコシ畑をマルチングしているところです。





“

農民紹介

アイリーン・シンザラです。49歳で、ムババラ地区のペンガウジャネ組合の自然農法農民です。アイリーンは未亡人で、彼女には育ち盛りの5人の子供がいます。彼女は家族を養うのに必死であった時、自然農法に出会い、2005年に自然農法プロジェクトに参加しました。

「肥料や種を買う余裕がなく、誰も助けてくれる人はいませんでした。ムババラ女性農民組合のことを聞いたとき、参加すれば子供たちを養うのに役立つと感じました。私は5人の子供の世話をしている母親であり、肥料のサポートを受けるための政府の会費を支払う余裕もなく、必死でした。それで、この農民クラブについて聞いたとき、私は参加することに決めました。」

アイリーンは、自然農法が彼女を本当に助けてくれたと言います。彼女は自然農法でトウモロコシの他に、ササゲ豆、キャベツ、スイートポテトを栽培しています。彼女は、種子を自家採取することで自分の農産物を育て続けることができ、収穫が少ない時でも外に出てキャベツやスイートポテトを売って、彼女や家族の日常必需品を買うためのお金を稼ぐことができましたと言います。

「自然農法は難しく、収穫量も多くありませんが、計画を立てて長期にわたって食料を保存することで、家族を飢餓から救うことができました。また、自然農法のトウモロコシ粉は美味しく、祖父母と一緒に育ったときのことを思い出します。」

アイリーンは自然農法を信じており、どんな時でも自家採取をしていると言います。彼女は、2018年の干ばつの時でも、次の雨季に撒くのに十分な種子を採取でき、保存した種子の一部を収穫できなかった家庭に与えることで、1、2家族を助けることができたと言いました。彼女は1ヘクタールの土地で農業を行っており、平均して雨が良ければ21袋のトウモロコシを収穫することができます。

「毎年、通常の21袋以上のトウモロコシを手に入れたいと思っています。それができれば子供たちを学校に通わせたり、私自身も他のことをしたりできるようになりますので。もう少し収穫を増やしたいのですが、いつも19袋から21袋までくらいです。それでも私より悪い立場にいる人がたくさんいることを思えば、すべて神様に感謝です。」

アイリーンは毎年恒例の自然農法ショーにも参加しており、彼女のクラブは農作物展示で何度も賞を獲得しています。自分たちが取り組んでいることを人々に示すことに非常に誇りに思っていると彼女は言います。



“ 水道設備の重要性

プロジェクトサイトは2015年に電力が導入されました。それと同時にプロジェクトサイトのゲストハウスの各部屋に水道を引くための配管システムも設置しました。今月、私たちのコミュニティの電気技師が、首都ルサカの電気技師と配管工から、水中ポンプと圧力ポンプをプロジェクトサイトの井戸に取り付けて水圧を安定させる方法についてトレーニングを受けていました。将来的には、職業訓練センターの若者たちに配管や電気配線の技術を学んでもらいたいと考えています。



“
心を育てる
のに重要な
芸術



新しい政府派遣教師の到着に伴い、PTAと教師委員会は、アートをカリキュラムに追加することを最終的に決定しました。これは、彼らが長い間やりたかったことだからです。秀明からのカラーペンやクレヨンなどの画材の寄贈で実施可能になっています。



生徒たちは三つの作品を仕上げるように課題を出され、まず最初のプロジェクトは粘土などの天然素材を使用して美しく形作られた動物を制作しました。



二番目のプロジェクトは、「私の農村生活」と題して絵を描くことでした。子供たちは自分たちの家や色鮮やかな動物を強調した絵を制作しました。いくつかの絵の中で、子供たちが友達と遊んだり、家屋の回りの様子が描かれているのがわかります。

最後のプロジェクトでは、種子や葉などの天然素材を使って絵などの作品を制作しました。

子どもたちの中にある創造性を引き出した先生方の活躍に祝福を送りたいと思います。今後子どもたちがさらに技術を磨き成長していく様子をお届けできたらと思います。

“ 拡張



新任教師の到着に伴い、5年生のクラスが追加されましたが、現在教室が4つしかないため、5年生の生徒はコミュニティホールで授業をしています。彼らは現在、新しい会議用テーブルと椅子を使用していますが、新しい机と椅子はムババラの職業訓練センターで作成され、完成したらペンバに輸送されることになってます。



縫製の女の子： 他のプロジェクト から学んだ知識

職業訓練センターは、パンデミックによる閉鎖から2021年2月1日に再開され、研修生たちがプロジェクトサイトに戻りました。縫製クラスもその研修が始められ、洗える生理用ナプキンのような各種の必要とされる製品を作ることを学ぶことにしています。これは、マラウイのグリーンマラタ職業訓練校を訪れたときに作られているのを見た製品であり、私たちのコミュニティでもそれを学ぶことを楽しみにしています。



私たちは、情報と知識を共有することは世界を変える重要な技術の一つであると信じています。」